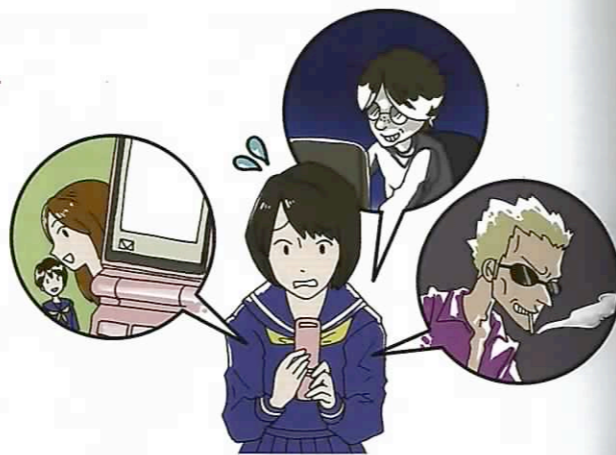


事例紹介 その2

止められない個人情報の流出。「プロフ」に気をつけて

「プロフ」というプロフィールを紹介できる掲示板の一種が、低年齢層を中心に人気をあつめています。携帯電話で撮影した写真を貼りつけたり、自己PR文や日記を書いたり、知らない人と「カキコ」(書き込み)で交流できるので、自己アピールにはうってつけです。しかし・・・

「紙の上の情報と違い、距離や時間の差を感じることなく情報が伝わるインターネットの怖さに直面することになりかねません。本名、電話番号、顔のわかる写真など重要な個人情報を掲載してしまったケースでは、個人情報だけが一人歩きをして被害にあうこともあります。見ず知らずの人々から誹謗中傷を受けたり、「煽り」といわれる挑発にのってしまったり、おもしろがっている悪意の人の思うつぼなのです。」(目代氏)



事例紹介 その3

怖い携帯依存症・いじめや自殺未遂の原因にも

インターネット掲示板で身元をかくして人を傷つける人がいるのは悲しい現実です。顔見知りか遠くに住んでいるふりをして近づいたり、他人を演じる「なりすまし」でふざけるうちに深刻な争いになるケースも紹介されました。また、「携帯電話がないと落ち着かない」、「メールをすぐに返さない」といった強迫観念にとらわれるケースもあります。夜遅くまでメール交換をやめられず生活のリズムがくずれたり、誤解から大切な友人を失ったり、いじめ、自殺未遂に発展する事件も発生しています。携帯電話の利用は、中学生になると急激に増え(左表)メールや携帯サイトの利用が通話を大きくうまわまるようになるので注意が必要だといえるでしょう。

DATA ANALYSIS
携帯電話の利用(一日平均)について

		通話	Eメール	インターネット
小学生	男	11.0分	5.0回	5.5分
	女	13.0分	7.3回	6.0分
	計	12.1分	6.3回	5.8分
中学生	男	8.2分	18.3回	22.7分
	女	8.3分	23.6回	44.8分
	計	8.3分	21.3回	35.0分

(データ提供: 江戸川区教育委員会)

どう防ぐ? 携帯依存症

家庭のルールを作ってください。

DATA ANALYSIS
ルールを決めて利用している・・・小学生: 67.6 中学生: 45.6 高校生 21.5



Illustration by Yoshimi Yamada.

巨額料金、暴力、いじめ。
携帯電話トラブルから子どもたちをまもれ

いま、携帯電話のインターネット通信を舞台にしたトラブルに子どもたちが巻き込まれるケースが急増しています。その原因はメールや掲示板での「相手の見えないコミュニケーション」の難しさや「新しい仕組み」に対処できないことが原因です。

子どもたちを携帯電話のトラブルから未然に救うには、親や先生たちも正しい知識・使いかたを身につけなければなりません。「地域に貢献する商店街発信」を目指すL2編集部では携帯電話トラブルに詳しい情報ビジネスコンサルタントを招き、「子どもの携帯安全教室」を開催いたしました。当日紹介された事例とその対策についてレポートします。

資料提供・協力=江戸川区教育委員会

携帯ゲーム会社が大盛況

携帯電話普及の追い風をうけて、専用のゲームを提供する会社が大きな利益をあげています。「料金無料」「気軽に参加できる」をうたい文句にしたゲームに多くの人が仲間と点数や「アイテム」とよばれる仮想の物品をあつめることに夢中です。

さて、「料金無料」が本当だとしたら携帯電話用ゲームの会社はどうやって利益を得ているのでしょうか。

DATA ANALYSIS
江戸川区調べ・ネットトラブルの有無



携帯電話をもっている子どもの5人に1人はネット被害に遭っている。未然に防ぐためにも、学校でのネット被害指導を行なうことが重要視されている。(データ提供: 江戸川区教育委員会)

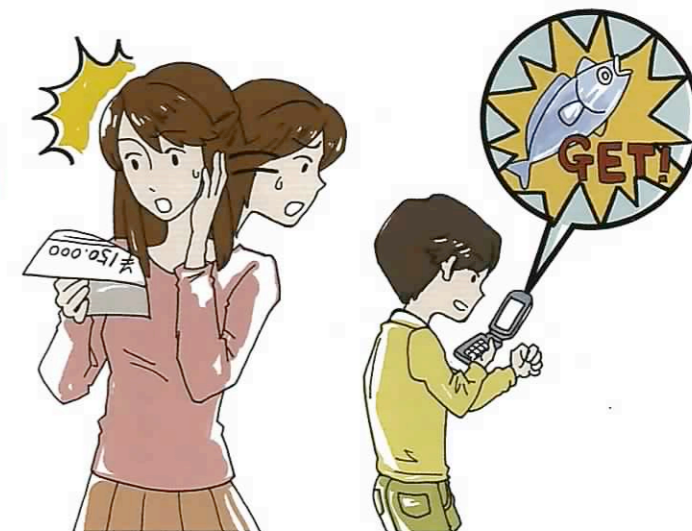
事例紹介 その1

ゲームで満足感を得るための「仮想の竿」が数千円。

目代氏は携帯ゲームの危険性から紹介をはじめました。「それは大物やキレイな魚を釣り上げて自慢しあう単純な釣りゲームですが、無料で使える「竿」では小さくて地味な魚しか釣れません。そこで「有料アイテム」と呼ばれる竿の登場です。高い竿を買うほど、大物を釣り上げる確率が上がります。しかしプレイするうちに竿が折れてしまう。つぎつぎ新しい竿、高価な竿を買いつづける人がいるからこそ、携帯電話用ゲーム会社はなりたっているのです。」

そして予期しなかった携帯電話の請求が・・・

大人であればゲーム内で使える「仮想の竿」にお金をつぎ込むことも自己責任です。しかし携帯電話は大人・子どもを判別しませんから、子どもの携帯電話からのアクセスであっても容赦なく課金されてしまいます。気づかないうちに課金がつみかさなり、請求書が親元に届いたときにはあとの祭りとなるのです。事例の中には十数万円の請求がきたケースもあり、参加者はさらにおどろきの声をあげていました。



講師・目代純平さん
チェックフィールド(株)代表取締役。1976年生まれ。米国、台湾で学びIT運用コンサルティング業務を行う傍ら得た知識や事例を元に「子どもを危険なインターネットから守るための方法」をメインテーマに講演を展開。NPO法人を設立準備中。



地元・小岩のお子さんをもつ保護者を対象にひらかれた携帯電話トラブル対策講習。小中学校PTAの役員さんはじめ、感心をもつ多くの方々が参加した。